

波崎での農家体験学習（野菜栽培技術コース）

JICA 筑波・野菜栽培技術 コースの研修指導では、講義・実験実習を通じ、環境に配慮し持続的に営農できる高収量高品質栽培技術と採種技術の習得、また農業協同組合や試験研究所および技術普及機関の活動などを理解できるようにカリキュラムを組み立てている。その中には農家訪問も含まれているが、研修員にとって農家での見聞きだけでは、各農家が経験の中から独自に得た栽培法の理解や、実践技術のツボを習得するというのはなかなか難しい。そのため、持続的営農を裏付ける技術活用の現状を体験し、研修で学んだ事が実際に用いられていることを理解する目的で、農作業と生活を同時に体験できる農家実習を実施した。

実習農家選定にあたっては、まず天候不順でも実施できる施設栽培農家に絞り込んだ。次に情報交換が容易な地域を考え、国内有数のピーマン指定産地でもある JA しおさい波崎営農経済センターに打診し、承諾農家を選定した。同センターに研修の実施要領および農家実習の目的を説明し、協力してくれた栽培部会の波崎青販部会と詳細を話して、最終的に1泊2日の農家実習を行うこととした。JA しおさい波崎管内では中国などの農業研修生の受入経験は既にあるが、JICA 研修員は初めてであった。農家負担の軽減を考えて、宿泊、食事はこちらで手配したが、食事の場所は母屋でさせてもらえるよう配慮をお願いした。そして一番問題となりそうな言葉についてはグループを3つに分け、AAI 社員を配置し通訳ができる体制とした。

受入農家は部会の役員であり、海外の農業視察の経験及び普及員や学生の研修を受入れた経験があり、また中国の農業研修生を雇用している等、積極的な人達であった。研修員は朝8時から午後8時まで、ピーマンの収穫、選果箱詰め、剪定、誘引などの作業を農家と共に行い、一方、農家は作業の仕方、そのコツを実践して見せ、積極的に研修員へ働きかけてくれた。また作業の合間に、技術についての農家の考え方や実際について仔細に話してくれ、昼夕食の際にも代々の農家生活等を研修員へ話してくれた。研修員もハウスで作業をしながら家族の事やピーマン栽培のコツなどを質問し、休み時間や食事の時は自国の生活ぶりを話し、自分たちを理解してもらおうと努めていた。

研修後の受入農家へのアンケート調査結果によれば、研修を受入れてくれた3農家とも本実習を高く評価してくれており、以下のような建設的な意見を得ることができた。

- 初めての経験だったので当初は少し心配したが、研修員の国々の事情を理解する貴重な経験ができた。
- 研修員との話を通して、我々の農業の大切さとこれを発信することの重要性を改めて感じる事ができた。
- 1.5日の実習期間は短く2~3日くらいまでは延長可能である。研修員との交流をより深めるために、子供たちにも接する機会が得られると益々有意義になると思う。
- 今回は作型の都合で作業量が少ない時期だったので農業技術について話す・聞く時間を多くできたが、通訳を介さなければこれほど時間を有効に使えたかどうか疑問であり、通訳には大いに感謝したい。

また研修員側の感想としては全員が満足したと評価したが、1泊2日は短くもう少し長くても良かったとコメントした。農家実習という体験学習は研修効果を引き出す手法として有効といわれているが、受入関係者への好影響も見逃せない。
(長谷川、小野)



ピーマン収穫



生産物の搬送



選別工場での実習